

那覇市長 宛

令和 6 年 9 月 18 日

団体名 那覇市自治会長会連合会

代表者 会長 田島 繁

担当者 事務局長 西平博人

「なは市民活動支援事業」

中間報告書

令和6年5月15日付け、那覇市指令市ま第683号で交付決定の通知を受けた当該事業について、現時点での進捗を下記のとおり報告します。また、市ホームページへの掲載を承認し、中間報告会で他団体とも内容を共有します。

1.事業名	なはユース自治大学 ～ 自治会を新たなキャンパスに！！ ～	
2.実施内容	(何をいつ実施したか(事務局会議は除く)、対象者や実施場所など) ○5月10日：那覇市まちづくり協働推進課、DX推進室による座学 ○5月15日：松島自治会、古島自治会 西平博人会長による座学 ○5月24日：銘苅新都心自治会 前原信達会長による座学 ○5月31日：真地団地自治会 前田節子会長による座学 ○6月7日：小祿泉原自治会 我如古正樹会長による座学 ○6月21日：真地団地自治会「100金食堂」フィールドワーク ○6月28日：石嶺ハイツ自治会 末吉ヒサ子会長による座学 ○7月5日：銘苅新都心自治会「地域資産めぐり」フィールドワーク ○7月11日：石嶺ハイツ自治会「見守り訪問」フィールドワーク ○7月20日：松島自治会、古島自治会「地域イベント」フィールドワーク ○7月26日：小祿泉原自治会「地域めぐり（地域課題の体感）」 ○8月2日：大学生、自治会長による中間振り返り、懇親会 ○9月：自治連会報なはで全体共有 以上 座学6回、フィールドワーク5回、振り返り懇親会1回、自治連会報なは1回	
3.事業を一言で表現すると	(例：生活困窮世帯に食糧を配布することで、対象者が安定して食事が取れるように支援する。) ユース世代（10代から20代）が地域社会（自治会）の現状を学び、課題や魅力発信にむけたアクションプランを実践することでユース世代が活躍できる地域を創出する。	
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 ・沖縄大学のゼミと連携することで、安定した生徒参加の確保 ・自治会フィールドワークに大学生が参加することで地域が活気づいた ・大学生が地域を知ることができた ・運営委員、沖縄大学島袋先生、那覇市まちづくり協働推進課と意見交換しながら事業を進めている ・各々の自治会長も改めて自分の地域を知る機会に繋がっている	【改善点・今後につなげる点】 ・大学生にもっと自分事になってもらうよう検討 ・今回参加していない自治会への共有方法（再度の自治連会報と全体研修会予定）
5.今後の活動予定 (事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定)	(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など) ・まず今後予定しているのは、①公開シンポジウム②自治会全体研修③学生による最終発表（①～③同日開催）で、連合会自治会と大学生への学びに繋がり、那覇市の地域力向上に繋がるよう、大学側と運営委員会です今後のスケジュールと内容を検討中。その後、報告書の作成と、あと1回の自治連会報なはでの全体共有を予定。	

<p>6.活動写真 (簡単な説明文を記入)</p>	 <p>(真地団地自治会100金食堂を体験)</p>	 <p>(石嶺ハイツ自治会見守り訪問体験)</p>
	 <p>(銘苅新都心自治会による地域資産めぐり)</p>	 <p>(小祿泉原自治会にて地域課題、魅力めぐり)</p>
<p>7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市自治会 5つの地域でフィールドワークを実施 ・公開シンポジウムを1回開催、参加者へアンケートを行い満足度5段階中4以上を8割 ・全体研修会の1回開催、那覇市 148自治会へのアンケート実施 ・自治連会報は2回発行（1回は発行済み） ・ユース自治大学報告書1冊作成（那覇市のHPに掲載） 	
<p>8.現時点の目標達成度 (例：60%達成)</p>	<p>40%達成</p>	

* 9月20日（金） 提出メ

* 提出方法：メールにて提出

* 提出いただいた中間報告書は、ホームページにそのまま掲載予定です。枠を広げて構いませんが、2ページに収まるように記入してください。

* 中間報告書は、報告会で参加者に配布予定です。この報告書をもとに発表していただいても構いません。